

2-10 その他サーベイランス

野生動物サーベイランス

野生動物は家畜への疾病の侵入ルートの一つとして指摘されており、家畜の間で清浄化が達成されたと考えられる疾病でも、野生動物の間で疾病が維持されている可能性もあることから、家畜の伝染性疾病の野生動物における浸潤状況を把握する必要があります。このため、農林水産省ではいくつかの野生動物種を対象に、重要な家畜伝染性疾病的浸潤状況を確認しています。

(1) 野生シカのヨーネ病サーベイランス

2016年度から2022年度までに1,648検体

(糞便)についてヨーネ病検査を実施したところ、PCR検査により定性陽性（遺伝子が検出されたがDNA濃度が低いもの）と判定されたものが25検体ありました。また、定量陽性（基準値以上のヨーネ菌DNAが検出されたもの）と判定されたものが7検体、そのうち3検体については糞便培養でも陽性が確認されました（2-10-1図）。

(2) 野生シカの鹿慢性消耗病（CWD）検査

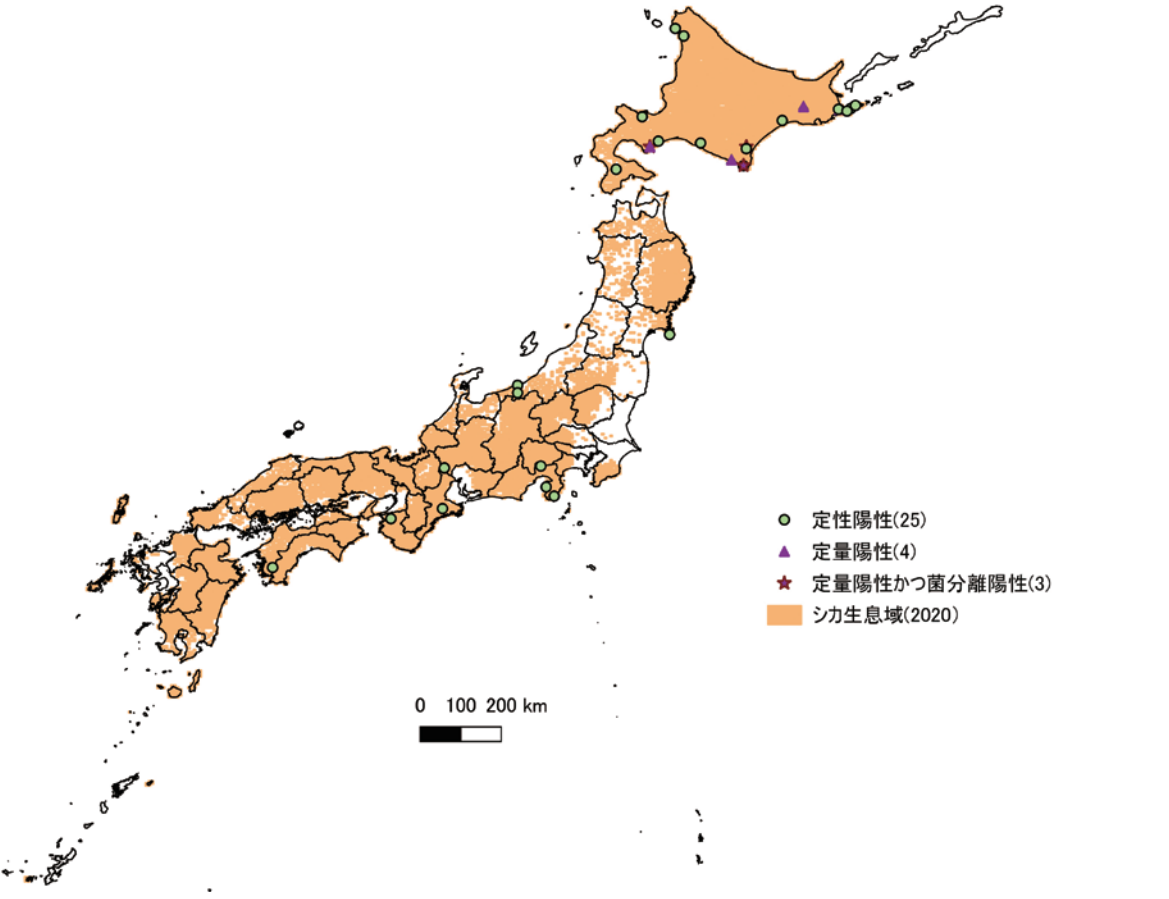
2022年度に採集した80 検体（延髄）についてCWD 検査を実施したところ、全て陰性となりました。

(3) 野生イノシシのオーエスキー病サーベイランス

オーエスキー病は妊娠豚での異常産や哺乳豚での神経症状及び高い死亡率を主徴とする届出伝染病であり、我が国ではオーエスキー病防疫対策要領に基づいて清浄化を進めてきた結果、飼養豚では2017年を最後に発生が報告されていません。

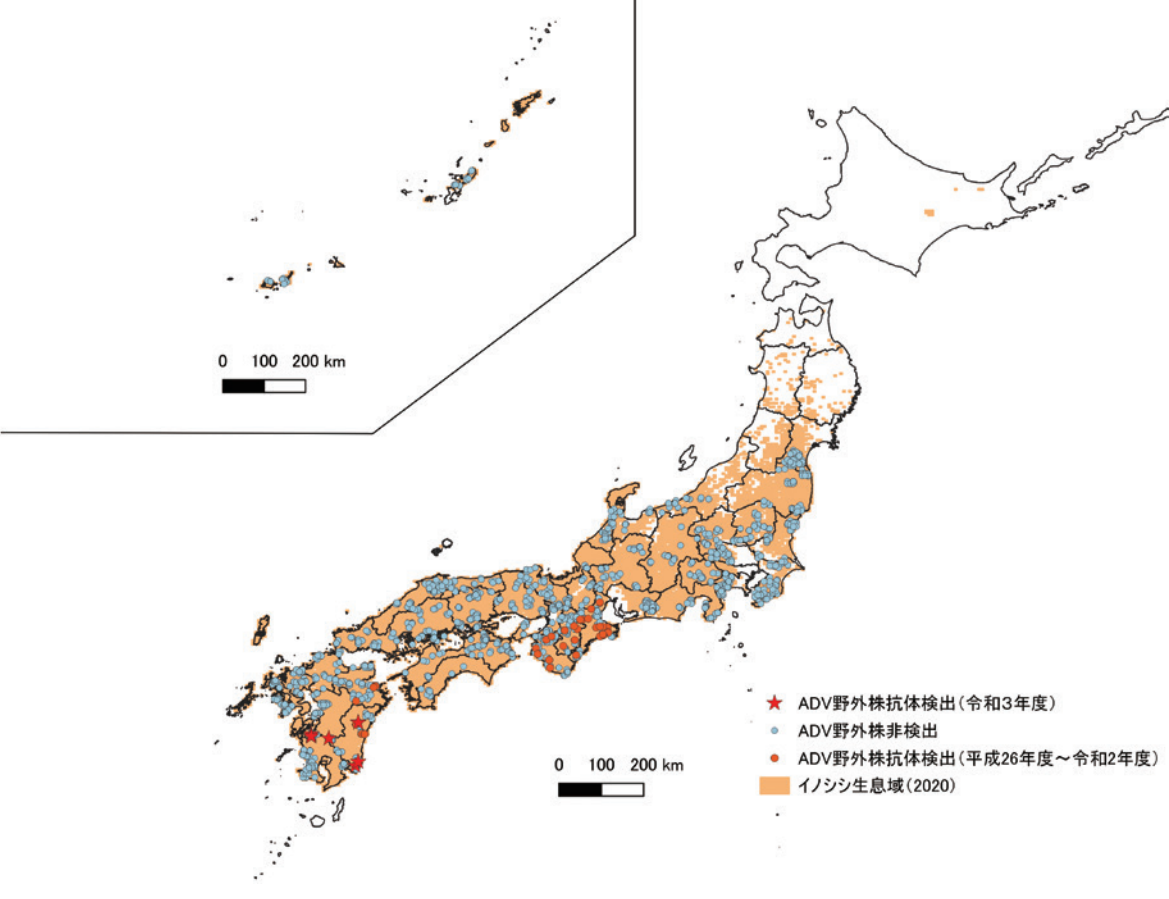
野生イノシシについては、2021年度は、九州の4県で収集された野生イノシシ検体（各20検体）についてオーエスキー病検査を行ったところ、過去の検査でも野外ウイルス株抗体が検出されている2県（宮崎県、熊本県）において、計7検体の抗体陽性が確認されました。2022年度も調査を継続しているところです（2-10-2図）。

2-10-1図 野生シカのヨーネ病サーベイランス（2016～2022年度実施）結果



(注) シカの生息域は環境省のデータ（<https://www.env.go.jp/press/109239.html>）に基づく。

2-10-2図 野生イノシシのオーエスキー病サーベイランス（2018～2021年度実施）結果



(注) イノシシの生息域は環境省のデータ（<https://www.env.go.jp/press/109239.html>）に基づく。北海道で分布が確認されているが、北海道によると、これらは飼育下由来のイノブタを捕獲したものであり、北海道では自然状態でのイノシシの生息はこれまで確認されていない。

(4) 野生イノシシのトキソプラズマ症検査

トキソプラズマ症は、トキソプラズマ原虫の感染により主に発熱、下痢、呼吸困難等を引き起こす人獣共通感染症で、豚、イノシシ、めん羊、山羊の届出伝染病です。国内では、一部の県のみで豚での発生があります。野生イノシシについては2014年度から検査を行っており、2022年度は36都府県で収集された358検体についてトキソプラズマ原虫抗体検査を行ったところ、42検体が陽性となり、27県において少なくとも1頭の

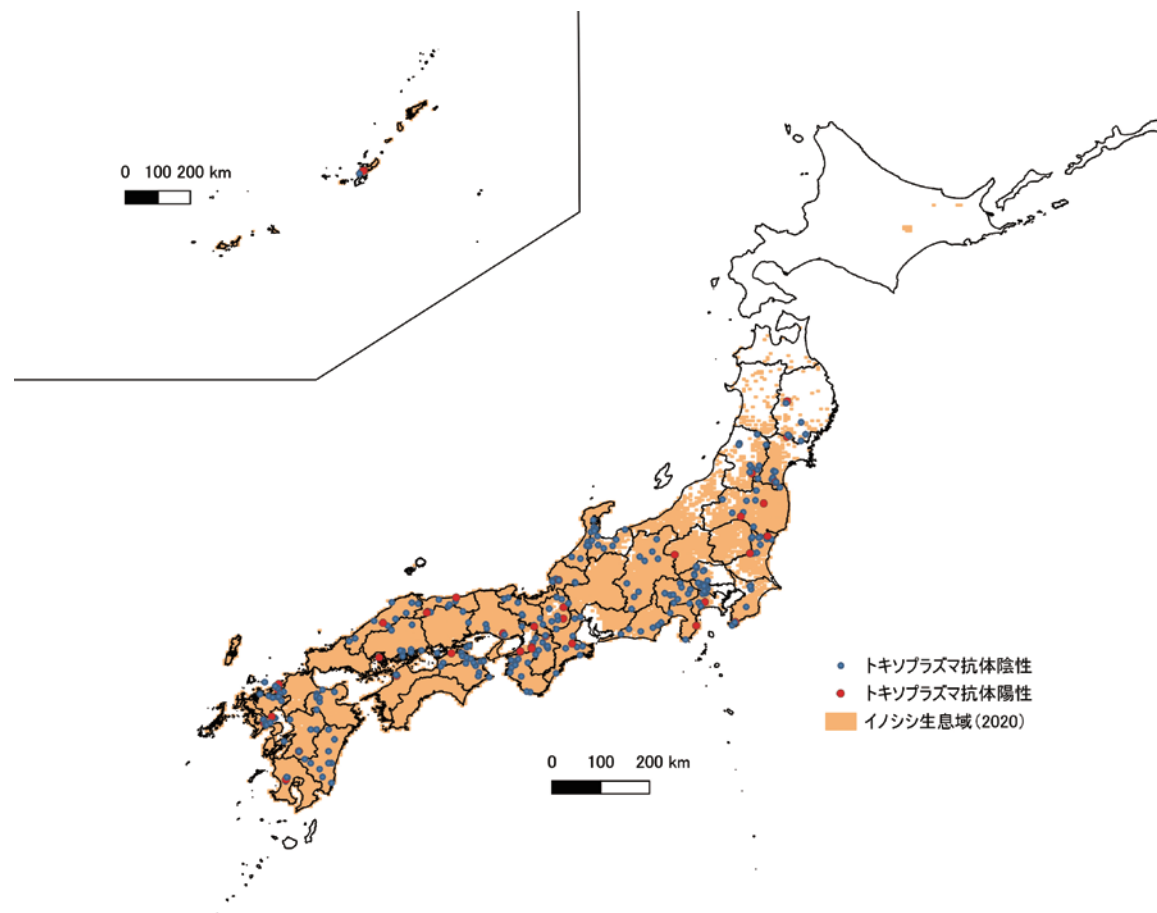
の抗体陽性が確認されました（2-10-3図）。

野生動物サーベイランスについての詳細は以下に掲載されています。

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/wildlife_surveillance.html



2-10-3図 2022年度野生イノシシのトキソプラズマ症サーベイランス結果



(注) イノシシの生息域は環境省のデータ（<https://www.env.go.jp/press/109239.html>）に基づく。北海道で分布が確認されているが、北海道によると、これらは飼育下由来のイノブタを捕獲したものであり、北海道では自然状態でのイノシシの生息はこれまで確認されていない。

参考資料